



〈参考資料〉 地域歴史遺産活用事例の紹介(第5回 「まちづくり地域歴史遺産活用講座」 試行プログラム ム(2011.9.18-19実施)テキスト)

坂江, 渉

(Citation)

地域歴史文化の育成支援拠点としての国公立大学 : 地域歴史遺産の保全・活用と防災, 平成23年度特別研究プロジェクト 国公立大学フォーラム:86-87

(Issue Date)

2011-12-11

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81003735>



地域歴史遺産活用事例の紹介

講師 坂江 渉 (神戸大学)

はじめに

▼人文学研究科地域連携センターの活動

□兵庫県内各地の自治体、住民組織と連携しつつ、歴史遺産を活かしたまちづくり支援
・今年度……神戸市、灘区、小野市、朝来市、丹波市、伊丹市、宝塚市、三木市、明石市、たつの市、篠山市、香寺町、福崎町などにおいて2～30の事業展開（延べ数は50以上）

□その中には一定の前進を遂げつつある所や団体も存在。

→そうした事例について、いくつかの特徴点に分けて紹介

一、住民の地域文化への愛着の強さ

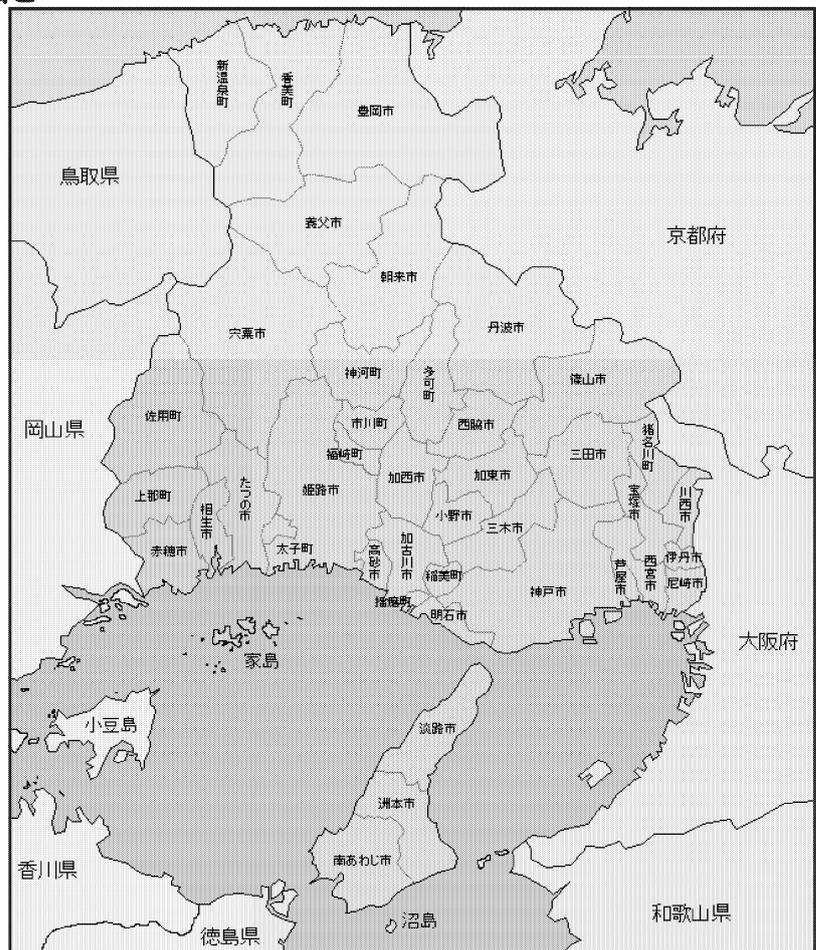
▼地域社会の足腰の弱まりの事実（高齢化、過疎化、人口の急激な流出入等）

↓（にもかかわらず）

□可能性はまだ残されている

□担い手の年齢層はそう若くはないが、地域への愛着心、潜在的なパワフルさ

（cf）団塊の世代、Uターン組



二、大字（旧村）へのまなざし

▼一定の成果をあげる所

□活動そのものが、もっとも基礎的コミュニティーの大字（区、財産区、旧村）を単位

→丹波市春日町棚原地区、尼崎市富松地区、

→神戸市などの都市部などでも

三、多様なものへの関心とその公表の場

▼地域内の身近な歴史遺産への着目とその掘り起こし

□古文書、古地図、古写真（かつての風景）、習俗や生活の思い出など

→宝塚市山本地区、神戸市中央区北野村、東灘区住吉村……

→「大字誌」を作る動き（市川流域の香寺町、神河町など）

▼掘り起こした成果を発表する機会を設定

- 手作りのミニ展示会、「大字」歴史マップの作成、
 - 灘区篠原地区、伊丹市御願塚地区、明石市の新事業
 - バーチャル博物館（尼崎市富松地区）

四、横のつながりを広めていく努力

- ▼仲間うちとしての活動や、「一発イベント」ではなく、仲間を増やし、持続性をもたせた活動（基本は楽しく）
- 新旧住民の交流・・・ニュータウン住民にも地域の歴史文化を知ってもらう工夫
 - 姫路市香寺地区、宝塚市山本地区
 - ・旧住民・・・知られているようで知られていない「地域の歴史」
 - 長野県阿智村
- 若い世代への継承を意識した活動
 - 小学生と親（母親）と高齢者（小野市の地域展）
 - 「地元の歴史文化まちを正確に知ってもらい、それを後世につないで行くことが使命」（丹波市春日町棚原地区）

五、行政サービスの力を引き出す工夫

▼財政難、自治体合併・・・行政サービスが低下しつつある現状

↓（その中でも）

- ①これまで収集・保管された歴史情報や資料を積極的に利用する姿勢
 - 既刊の自治体史、資料館や博物館等の所蔵資料の活用
- ②人の活用（行政の専門職や大学の専門的知識の動員）
 - 「活動に役立てる為には何でも利用、活用していく」（棚原地区）
- ③資金調達面での工夫
 - まちづくり推進課、観光振興課、県民局等の助成金への応募
 - 「里山づくり」と結びつけた活動スタイル

おわりに

- ▼歴史文化だけで大々的な「まちづくり」を進めるのは困難な面があるが、「まちづくり」を進める上で、自分たちの地域や歴史文化を知ることは必須の作業